

ニュースレター
Newsletter



市民のためのがん治療の会

No 3

2009.7

Vol.6 (通巻 23 号)

巻 頭 言

がん治療
 認定医の誕生



札幌医科大学学長・理事長
 日本がん治療認定医機構理事長

今井 浩三

略 歴

昭和47年 札幌医科大学医学部卒
 平成6年 札幌医科大学内科学第一講座教授、平成16年札幌医科大学学長、現職
 平成19年 日本がん治療認定医機構理事長

この間、昭和53年～56年米国 NIH 認定博士研究員、昭和60年英国ケンブリッジ大学 MRC 研究所上級研究員

がん治療認定医制度は、がん関連の3学会と全国がんセンター協議会が中心となり、2006年にはじまった。放射線や緩和医療を含めた日常がん治療水準の向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識、基本的技術に習熟し、高い倫理観に基づいたがん治療を実践する優れた医師（がん治療認定医）の養成と認定を行い、がん診療の発展と進歩を促し、国民の福祉に貢献することを目的としている。

この制度とほぼ同じ時期に大学とがん診療拠点病院を中心に、若手医師等を対象にして「がんプロフェッショナル養成プラン」（文科省の事業）がスタートした。これにより、今後コンスタントにがん治療認定医が増えることになろう。これまで、3年間で3回の厳格な試験を行い、全国で約6,000名の認定医が誕生した (<http://www.jbct.jp/index.html>)。

進歩の著しい化学療法、分子標的治療、放射線治療等の最新の知識を有し、どのような治療を選択するべきかの的確な情報を患者さんに提供し得る、患者さんの視点に立った総合的「がん治療認定医」の誕生である。特に緩和医療なども治療の視界に入れた総合医の育成は、コメディカルスタッフとのチーム医療の展開という観点からも今後益々重要であろう。

さらに、本制度により全国各地の地域の第一線の病院、診療所に「がん治療認定医」が配置されることになり、がん患者の診断・治療に画期的な役割を果たす可能性が高い。学会、専門医師集団、日本医師会が一丸となってがん患者さんのために尽くす組織がはじめて確立されたということもできよう。

平成21年 第3回「市民のためのがん治療の会」講演会要旨(1)



「秋田県の放射線治療の現状と役割」

秋田大学医学部放射線科前教授 渡会 二郎

1969年3月東北大学医学部医学科卒業後、宮城県立成人病センター放射線科、秋田県立脳血管研究センター放射線科、山形大学医学部附属病院放射線部助教授を経て秋田大学医学部放射線医学講座助教授。秋田大学医学部放射線医学講座教授を経て平成15年秋田大学医学部医学科統合医学講座放射線医学分野教授。平成21年退職。この間、平成3年7月から平成4年4月まで文部省在外研究員（テキサス大学 MD アンダーソン癌センター）。医学博士。

秋田県は全国でも人口減少速度が早く、少子高齢化が最も早く進行している県です。人口数も1995年がピークで、以来日本の中で少子高齢化の先進県となりました。加えて人口に比較し面積が広いいため、2次医療圏内の人口が県庁所在地以外には少なく、医療機関数と医師数は北海道と共に大変少なく、医療へのアクセスが大変困難な県でもあります。

医療政策上、がん対策においても2次医療圏毎の整備充実が目標とされます。全国規模レベルの集計では2次医療圏単位の医師数の格差は17倍あるとされています。秋田も郡部の過疎化と秋田市への人と機能の集中が進んでいます。医療の専門分化に伴い専門診療科は大都市に偏在し、地方では医師不足も重なり専門診療を受ける事が難しくなりました。加えて昨今の行財政改革、金融危機および医療資源（医療機器、医師・看護師・医療従事者 etc）の予算確保は財政上難しくなっています。これはがん診療への基盤整備においても同様です。

秋田県の地域医療の現状(2006.12)

- 1) 10万人対医師数は全国第34位
→ 慢性的医師不足
- 2) 2次医療圏単位医師数（人口10万人対）
112.6～258.7：県内格差2.3倍→医師の偏在
2次医療圏単位の全国格差は17倍
→ 専門医確保の困難化

緊急の課題：

県内医療をめぐる急激な構造変化への対応
医療資源（医療専門職、機器）の集約化

秋田県は1997年以來がん死亡率が全国一で、同じ生活習慣病である心疾患、脳卒中の死亡率の約2倍となっております。2006年から秋田県内のがんの実態を把握をするため、県全域の地域全がん登録の公的事業が開始されました。現在まだ登録率は76%程度で、地区により登録に2.4倍の開きがあります。秋田大学附属病院の腫瘍センターで、2007年1月から院内がん登録を開始しております。ここで全県のがん登録の解析も始めており、2007年の県内推計では約8,970名が、がん罹患していると見られています。秋田県で罹患率の多いがんは、胃、大腸、肺、前立腺、乳房、食道の順となります。中でも胃がんと大腸がんの2つが大多数を占めます。まだまだ手術療法が主体となるがんの罹患率が高い県と言えます。生存率向上の為には生活習慣の改善による予防対策に加えて早期発見、早期治療が大事です。秋田県の年度毎のがん検診受診率は胃がん25%、肺がん30%、大腸がん30%、子宮がん25%、乳がん25%前後で推移しており、全国の胃がん13%、肺がん23%、大腸がん16%子宮がん14%、乳がん12%の受診率より高くなっております。

国のがん検診受診率の目標値は50%ですが、厚生労働省調査では2007年の胃がんと肺がんの受診率の全国格差は、各々5.1%～36%、5.3%～45.3%と大きく、秋田県内でも地区毎に受診率に差があり、解決すべき大きな課題となっています。秋田県のがん検診受診率は全国レベルから見てそれ程低くないのに死亡率が高いのは、がん罹患リスクの高い住民の検診受診率が低い

のか、生活習慣改善による予防対策に問題があるのか、県民の受診行動やがん治療体制と精度に問題があるのか、今後の検証が必要です。

国立がんセンターの推計では2020年の日本のがん罹患率順位では、男は肺9万、前立腺7.8万、胃7.2万、結腸5.3万、肝臓3.3万……、女は、乳房5万、結腸4.9万、胃3.7万、肺3.3万、子宮2.3万……となっています。今後は放射線治療の適応となる肺がん、前立腺がん、乳がん、子宮がんが増えてくることが分かっています。がんは生活習慣の他、加齢に伴い増加することから、高齢者に向く治療法の確立が大きな課題です。

欧米では日本に先駆けること40～50年前から放射線治療の対象となる肺がん、乳がん、前立腺がんの罹患率が高く、それらの標準治療法としての放射線療法が確立しています。日本は今その標準治療法を先進諸国レベルまで引き上げる努力を始めたと言えます。中でも学ぶべきは、多くのがん患者さんが集まる欧米のがんセンターのように、多数のがん専門技術者集団（病理診断医、腫瘍画像診断医、内科腫瘍医、外科腫瘍医、放射線腫瘍医、専門看護師、医学物理士、放射線専門技師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカー、緩和ケアチーム……）によるがんのチーム医療を行うシステムの構築と医療資源の選択と集中による基盤整備方式です。日本において、がん対策基本法は成立しましたが上記のシステム構築、基盤整備は今後達成すべき大きな課題です。

現在米国において、全がん患者の60%が放射線治療を受けています。日本では未だ25%程度とされています。食生活など生活様式の欧米化に伴い、罹患するがんが欧米型になってきており、放射線治療の適応患者数は今後確実に増加します。高齢者を中心に増加するがんに対する治療として、余命を有意義に過ごすための患者さんに負担の軽い日常生活に支障が起らない治療法の選択が大切になります。

放射線治療は、体を元の形のまま温存（形態温存）し、体の働きを失わないように（機能温存）し、体に対する負担の少ない（低浸襲）と言った多くの利点をもった治療法です。ただし限界として、外科療法同様の局所療法ですので、広がったがんや、放射線に効きにくい（放射線低感受性）がん、がん周囲の正常組織が放射線により副作用が出やすい場合では行いにくいことがあります。

現在秋田県内の新患のがん患者さんの約20%が放射線治療を受けており、内61%は秋田市内の病院、特に大学病院が占める割合が30%と多くなっております。県内の放射線治療装置は10病院に設置されていますが、内7病院の年間患者数は各病院共100名前後と少なく、2病院では200名前後、大学病院は500名前後と差が大きくなっています。今後は医療資源の有効活用が大きな検討課題となります。

現在県内の2病院は近隣の2大学からのバックアップを受けています。他の病院は秋田大学附属病院の放射線治療専門医が定期的な専門的コンサルテーションと非常勤での放射線治療の実施を行ってきています。秋田県では、地域のがん診療の専門医不足、診療機器の老朽化を踏まえて、設置主体を超えた連携でがん診療の役割分担を進め、放射線治療のレベルの維持に努めています。

県内基幹11病院の年間がん患者数

（内厚生連が6病院）

☆新入院がん患者数 17,119

☆外来がん患者数 275,815

内年間新放射線治療患者数 1,807

（推計：全新がん患者の約20%）

秋田市内の病院に集中（61%）

→大学30%（病床規模当たり国立大学トップ）

高度医療の大学集中で機能が飽和状態

県内総病床数の約40%は9厚生連病院

平成21年 第3回「市民のためのがん治療の会」講演会要旨(2)

患者さんのお話

「私のがん体験」



ガン検診をすすめる会 代表
佐藤 文夫

私は、昭和4年1月22日生まれ、現在80歳です。自分は民間会社定年後、10年以上基本健康診査さえも受けていませんでした。常に自分は健康だと自負しておりました。

しかしその頃から、夜トイレに3回も起きるようになり、おかしいと思い病院で検査を受けたところ、前立腺ガンとのこと。すぐ手術が必要とのことでした。手術し、退院後5ヶ月すぎ、右下腹部が痛いので病院で検査を受けたところ脱腸だといわれました。脱腸の手術をするための検査を受けたところ、今度は大腸ガンと診断され、1ヶ月以内に手術しなければ命にかかわると言われ、即、手術してもらいました。

ガンはすでに2年位前から発病しており、腸管に入る寸前まで進行していました。腸管に入

てしまうとガンが体全体に回ってしまい、手遅れになってしまうということでした。

脱腸の症状がなければ手遅れになっていたと思います。

私の場合、前立腺ガンと、大腸ガンは同時期に別々に発症したと思っています。私は、前立腺がんを手術してから今日現在で7年になります。前にも述べましたが、前立腺がん手術5ヵ月後、大腸がん手術をしております。大腸がん手術後7日目、医師から、大腸がんを発症した人の、90%以上の人は肝臓がんになるから、予防として抗がん剤を投与してみないかと言われましたが私は断りました。

そのため、手術後は薬もなく、定期的な検査のみで、私自身は抗がん剤の苦しみは経験しておりません。抗がん剤を断った理由は、手術1年位前にラジオで、抗がん剤による後遺症などから断る人が多くなって来ているという話を聞いていたからです。

私の経験から、皆さん健康な時こそガン検診を受けて頂きたいと思います。

それがガンを初期の段階で見つけることの出来る最大の方法なのです。

秋田市制120周年記念関連事業

平成21年第3回「市民のためのがん治療の会」講演会

共催 市民のためのがん治療の会・がん検診をすすめる会 後援 秋田県・秋田市

日 時：平成21年5月23日(土) 会 場：秋田市文化会館 大ホール

【講演内容】

- | | | | |
|-------------|-----------------------|-------------------------------------|--------------------------|
| 13：00～13：15 | 開会挨拶 | 「市民のためのがん治療の会」代表 | 會田昭一郎 |
| 13：15～14：00 | 「秋田県の放射線治療の課題」 | 秋田大学 放射線科 前・教授 | 渡会 二郎 |
| 14：00～14：05 | 「私のがん体験」 | 「がん検診をすすめる会」代表 | 佐藤 文夫 |
| 14：05～15：05 | 「高齢社会のがん医療」 | 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター 院長 | 市民のためのがん治療の会 代表協力医 西尾 正道 |
| 15：05～15：15 | 休憩 | | |
| 15：15～15：45 | 情報交換 — 参加者と講師などとの意見交換 | | |
| 15：45～16：25 | アカデミック漫談 | 日本笑い学会東北支部秋田県幹事 米谷 裕夫 (学会名：人星亭喜楽駄朗) | |
| 15：25～16：30 | 閉会挨拶 | 「がん検診をすすめる会」代表 | 佐藤 文夫 |

平成21年第4回「市民のためのがん治療の会」講演会

日 時：平成21年6月27日(土) 会 場：渋谷サンスカイルーム

【講演内容】

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------------------|--------------------------|
| 13：00～13：15 | 開会挨拶 | 「市民のためのがん治療の会」代表 | 會田昭一郎 |
| 13：15～14：30 | 「市民が変わるがん医療」 | 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター 院長 | 市民のためのがん治療の会 代表協力医 西尾 正道 |
| 14：30～14：45 | 休憩 | | |
| 14：45～16：25 | 総会 | | |
| 14：45～15：15 | 報告 | 「市民のためのがん治療の会」代表 | 會田昭一郎 |
| 15：15～16：10 | 意見交換 | | |
| 16：10～16：25 | 取りまとめ | | |
| 16：25～16：30 | 閉会挨拶 | | |

平成21年 第3回「市民のためのがん治療の会」講演会要旨(3)

「アカデミック漫談」



日本笑い学会秋田県幹事
人星亭喜楽馱朗
(米谷 裕夫)

私、逢喜多健立笑い幸学研究所長ですが、研究所で提唱している運動があります。

「食前一笑」運動です。「いただきます。わっはっはー」と大笑いしてから食べます。

最初に笑うとそれがずっと尾を引いて食事中愉快になるというので健康、消化、NK細胞の活性化によいということです。

それから、一笑一若、一怒一老と言う言葉もあります。一回笑うと一つ若返り、一回怒ると一つ歳をとるということです。一回笑うと卵3個とビール1本くらいの栄養があるそうです。

長生きするとしたら、日常生活で怒ることを極力少なくして笑うことを多くすればいいです。

誰もがいつまでも健康でいたいと思いますが、いつかは必ず病気になり、病院のベッドによこたわる時がきます。そのときに、病気に負けないでくじけないで、勇気と希望と明るさをもって人生を生き抜いてほしいと思います。病院の中で、同じ病気の人が暗い表情でよりそって、同病相憐れむではなくて、同病相励まし合って、「今日も1日元気でがんばろう」でいきたいですね。医者から、「余命いくばくもないよ」と言われたからって、びくびくすることはないので。今、生きている人は、赤ん坊から100歳の高齢者まで、全員が死亡率100パーセントです。生まれた瞬間から、死亡率100パーセントという烙印を押されながらも、そんなことはすっかり忘れて、みんなのんべんだらりと感謝の心もなく生きています。

重い病気になったり、医者から命少ないよ、

などと言われたりしてはじめて、生きていることの喜び、うれしさ、すばらしさに気がつくのではないのでしょうか。

私は笑い学会会員ですから、自分自身を生きている喜びに気づかせるために、こんなことを考えています。出産予定日があります。この世に誕生する予定日があるとしたら、この世を去る予定日があってもいいのではないかと思うのです。名付けて去世予定日。

毎年厚生労働省が発表する日本人の平均余命表から、この歳だとあと何年生きられるかというのがわかりますから、自分で計算して決めればいいのです。

自分のを計算したら、2030年11月17日が私の去世予定日となったのです。

この世とおさらばする日があるということがわかれば、一日一日がいとおしくなります。

無駄な一日を過ごしたくない、充実した一日にしたいという意識が強烈になります。

「時は金なり」ではなく「時は命なり」です。

だから、夫婦で会話しながら楽しい夕食をすることができるのは、あと何回かな。

と私は考えてしまうのです。それは無限ではなくて、数えることができる回数なのです。

ちなみに私の夕食の回数は、あとわずか、たった7,802回（平成21年5月23日現在）しかできないのです。そう思うと、妻への感謝の気持ちと、このひとときは二度と帰ってこない、機嫌良く楽しく過ごそうという気持ちが自然に湧いてきます。

ついでに言いますが、私の夕食はいつもにこにこ最高に上機嫌で食べます。一回といえども不機嫌な顔しての夕食はもったいないのです。数に限りがありますから……。

「人は決して幸せを避けてとおることはできない。花を見ないで道をとおることができないように。」室生犀星

平成21年 第3回「市民のためのがん治療の会」講演会要旨(4)

「市民のためのがん治療の会 講演会に参加して」



有限責任事業組合 あきたデザインサポート
事務局 伊藤 真由

この度、ご縁があって講演の司会をお受けした折に初めて秋田で「がん検診を進める会」代表の佐藤さんにお会いしました。私といえば、知る人ぞ知る……大きな声と健康だけが自慢の人間です。病気とは無縁なだけに、がんに関する知識も全く無いのが本当でした。

佐藤代表のお話しの中で、ご自身もがん患者である事や、講演会開催に向けてかなりの時間を割いていらっしゃる事を知りました。

二つのがんの患者である方が、こんなにも精力的に秋田県のがん検診率の低さを憂い活動している事に驚いたのです。

司会のシナリオは、講演会の数週間前に「市民のためのがん治療の会」の會田代表からメールで頂戴し、講演会前日には打合せを兼ねた顔合わせのご案内を頂戴しました。

あの時、今だから書かせていただきますが、佐藤代表から會田代表が舌がんだった事をお聞きしていた私は瞬間的に會田代表のお話しを聞き取れるだろうか不安に思ったのです。私の知人に舌癌で舌を切除なさった方がいたからでした。某社の専務さんで術後いつもハンカチを離さず口元を拭かれていらっしゃいました。屈託なくお話しくださるのですが、どうしてもお話しを聞きとるのが大変だったのです。そして、打ち合せ当日となり約束の場所にうかがうと、着物姿の男性が素敵なお声で「お待ちしております」とお迎えくださいました。この方が、昨日までお話しが聞き取れるかと心配した會田代表だと知った時の私の驚きは誰も想像できないと思います。それ程に「會田代表は舌がん＝聞き取りにくい」の想像をはるかに超える話し家のような粋な語り口が印象的な方だったのです。そこには、佐藤

代表に通ずる驚きと可能性がありました。

講演会の当日は残念な事に寒さと雨にたたられましたが多くボランティアの方のお力を借りて無事に開演となり、お一人目は秋田大学放射線科前教授でいらした渡会先生のお話しをいただき、秋田のがん事情から自分の住む地域医療の現実に愕然としたのでした。

その後、北海道放射線センター院長でいらっしゃる西尾先生のご講演が始まりました。

先生の理路整然とした小気味よいお話しぶりに引きつけられたのは言うまでもありません。実績に裏付けられたお話しは、強さと優しさが伝わるだけに大変説得力がありました。その事は講演後に回収したアンケートでも知る事ができました。

切らなくても放射線で治るはずの患者さんが日本では数多く外科的処置を受けている事や、現実に迫る高齢化社会は放射線が治療の柱になっていく可能性が高いにも関わらず日本では圧倒的にマンパワーが不足している事。そして、その現状を変え医療環境を変えていくには、社会そのものが良くなっていかなくてはならない事などを放射線治療のお話しを柱にしながら十分に理解できる内容でした。有意義な西尾先生のお話しの中で、人として最も印象に残るお話しがありました。要約すると、生きる選択と死する選択といった内容のお話しでしたが、がんと闘う人、ともに歩む人など沢山の方々を診てこられた先生ならではの話しだったと思います。

この講演会で私はがんを経験した方々と活動をしながら、がん治療のあり方その真実を知る機会に恵まれたのです。そして、セカンドオピニオンがどれだけ大切であるか……誰もがその機会を得る事が可能だという事も。可能性を自分で引き寄せた方々が治療の真実を伝える会だったと思える講演会でした。

一期一会、ありきたりの言葉ではありますが今後も秋田の空から「市民のためのがん治療の会」のサポーターとして伝道師としてエールを送り続けたいと思っております。

平成21年 第3・4回 「市民のためのがん治療の会」 講演会要旨



「高齢社会のがん医療」「市民が変えるがん医療」

国立病院機構 北海道がんセンター院長 西尾 正道

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター院長。函館市出身。1974年札幌医科大学卒業後、国立札幌病院・北海道地方がんセンター放射線科勤務。1988年同科医長。2004年4月、機構改革により国立病院機構北海道がんセンターと改名後も同院に勤務し現在に至る。がんの放射線治療を通じて日本のがん医療の問題点を指摘し、改善するための医療を推進。著書に『がん医療と放射線治療』2000年4月刊（エムイー振興協会）、『がんの放射線治療』2000年11月刊（日本評論社）、『放射線治療医の本音－がん患者 2万人と向き合って－』2002年6月刊（NHK出版）、の他に放射線治療領域の論文・専門著書多数。

平成21年第3回「市民のためのがん治療の会」講演会は5月23日に「がん検診をすすめる会」（佐藤文夫代表）の共催を得て秋田市で開催した。講演会では、3月まで秋田大学医学部放射線科教授として秋田県内のがん医療の先頭に立って活躍していた渡会二郎先生に「秋田県の放射線治療の課題」のテーマでお話を頂いた。秋田県では放射線治療の専門医ばかりか、最先端の高精度治療機器を保有している施設は少なく、今後のがん医療の均てん化に向けた対策が急がれている。秋田県では9施設が「がん診療連携拠点病院」として指定されているが、そのうち6施設は農業協同組合連合会を母体とした厚生連の施設である。だとしたら経営母体が同一である厚生連の中で一施設でも、最新の放射線治療が可能な設備投資を考えて頂きたいと思う。放射線治療機器は高額であり、年間治療件数と採算性を考慮すれば全ての施設での整備には無理がある。対策としては関連した厚生連の施設が、連携をとり整備した施設への放射線治療患者さんの集中化が必要と考えられる。

私は「高齢社会のがん医療」として放射線治療の重要性と充実の必要性についてアピールさせて頂いた。講演会開催に際して、アカデミック漫談で会場を沸かせた米谷裕夫氏、司会の労をとられた伊藤真由様に紙面をお借りして深謝いたします。

また第4回講演会は6月27日に6年目を迎えた当会の会員総会を兼ねて1年半ぶりに東京で開催した。會田昭一郎代表から当会の5年間の活動報告がなされた。

會田代表は、創立時点から良質ながん医療の普及に向けて市民や患者ががん治療の知識を持ち、納得した治療が受けられる医療環境の構築に向けて本会の活動を継続しているが、多くの労力と負担を背負って本会の活動を支えていることに敬服するとともに、ただただ感謝する次第である。

世界的に見れば死因の第一位は心臓病であるが、WHOは2010年には最大の死因はがんに替わると報告している。世界的に「がんの時代」を迎えようとしているのである。日本人の死因の1/3はがんであり、約34億人ががんで死亡している。世界一の高齢社会を迎えている日本は、2035年には多くの道府県は65歳以上が35%以上となる。当然がん罹患患者数は増加し、がんによる死亡者数も増加する。こうした時代には患者さんにとって負担が少なく、機能と形態を温存してがん治療が可能な放射線治療はますます重要な治療法となる。がん治療の均てん化を目指して国家的な対策が図られているが、医師の絶対数の不足と偏在による医療崩壊の様相を呈している現状では、がん医療においても多くの問題を抱えている。不十分で説明不足の医療情報、がん治療専門医の不足、治療病床の不足、など今後改善していかなければならない課題は多い。しかしこうした背景には診療報酬の問題や医学部教育・臨床研修の問題などがあり、多くの複合的な要因が絡んでいる。市民が問題点を認識し、自らの命を守るためには社会的公平性や合理性を踏まえて、医療関係者とともに声を上げ改善したいと思う。

著者が語る

「今、本当に受けたいがん治療」 エム・イー振興協会 —インテリと不眠症の人の本—



国立病院機構北海道がんセンター
放射線科

西尾 正道

放射線治療はがん治療の3本柱の一つであるが、本邦では先進諸国の中で最も有効に利用されていない。私はこの貧困な日本の放射治療の実態とその原因を考察し、放射線治療体制の整備や改善へ向けた提言を20年来行ってきた。

高齢社会のがん治療においては、侵襲の大きな手術が困難な患者さんが増加する。また副作用の強い抗癌剤の使用にも限界がある。そのため機能と形態を温存し高いQOLを維持してがん治療が可能な放射線治療は高齢社会においては重要な治療法となる。

1990年代中頃から放射線治療医の仲間だけではなく、社会的にも放射線治療を含むがん医療の問題が議論されるようになったが、なお課題は多い。

良質な放射線治療体制の構築には、医療スタッフの教育・研修や高額な医療機器の適正配置や、診療報酬による診療体制維持のための支援など多くの問題を解決する必要がある。

本書は医療の業界誌である「新医療」編集部
の強い勧めで2000年以降に執筆した原稿を中心
に刊行しものであり、2000年に発刊した『がん
医療と放射線治療』の続編とも言うべきもので
ある。内容的には前作の中でなお強調したい内
容の章と、2000年以降に著した「新医療」掲載
原稿、および「市民のためのがん治療の会」の
講演会で話した内容をまとめ加筆したもので

ある。古い原稿も混ざっているが、この20年間
の日本のがん医療の推移を知り、その時点で私
がどのように考えたかの記録でもある。本書は
私の専門である放射線治療の立場からの一面的
な意見ではあるが、がん医療の「均てん化」に
向けて社会が動き出している昨今、本書が患者
さんにも医療関係者にもがん治療についての問
題点を知る上で役立てば幸いである。なおやや
硬い内容のため、読みだすと眠たくなる人も多
く、不眠症の人にも副作用のない睡眠導入剤と
して購入して頂ければ幸いである。



お求めは書店または
「市民のためのがん治療の会」へ

- 「市民のためのがん治療の会」にお申し込み
の場合は e-mail、FAX、葉書などで、下記
にお申し込みください。送料は当会で負担い
たします。

(郵便振替用紙を同封しますので、代金は現
品到着後お支払いください)

市民のためのがん治療の会

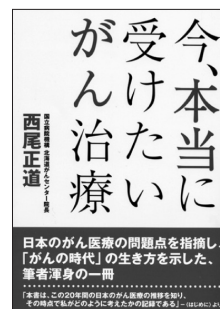
「今、本当に受けたいがん治療」係宛

e-mail : com@luck.ocn.ne.jp

FAX : 042-572-2564

郵 送 : 186-0003

東京都国立市富士見台1-28-1-33-303 會田方
「市民のためのがん治療の会」のWebサイト
からも申込可能です。

URL: <http://www.com-info.org/>

前立腺がんの小線源治療法の DVD 頒布を開始 『前立腺がん治療法あれこれ』 — 密封小線源治療法とは? —

「市民のためのがん治療の会」では、前立腺がんの放射線小線源治療について分かりやすく説明した DVD 『前立腺がん治療法あれこれ — 密封小線源治療法とは? —』の頒布を開始しました。

この DVD は東京慈恵会医科大学をはじめとする小線源治療の専門家の先生方が小線源治療を受ける患者さんやこの治療を希望する患者さんのためにこの治療の実際と長所や気をつける点をわかりやすく解説したものです。

がんの3大療法の中で根治できるのは、手術と放射線治療しかありませんが、がんの治療法の中で国際標準治療である放射線治療は、日本では傍流にすぎません。欧米先進国はもとより東南アジアの患者も含めて世界の患者の半数以上が放射線治療を受けているのに、日本ではようやく25%程度と推測されています。それは放射線治療医数の絶対的不足とも関係しています。外科医の数が10万人以上であるのに対して、放射線治療の専門医はたったの600人程度なのです。こういう状況もあって、日本では依然としてがん治療といえば、外科手術が主流となっています。こういうバックグラウンドの中で、「市民のためのがん治療の会」は軸足を少し放射線治療に置いています。

このところ急増している前立腺がん患者にとって、「切らずに済む」かもしれない放射線治療は極めて魅力的ですが、放射線治療は手術や薬（抗がん剤）に比べ治療の機序や診療システムもよくわからず、ましてや小線源治療などほとんど具体的な情報がない状況に鑑み、この DVD を、制作に携われた先生方に「市民のためのがん治療の会」を通じて頒布できるようにお願いして参りました。このたび、各先生方に本会の理念に賛同いただき、また、この DVD が小線源治療の啓発のために広く行き渡ることを願われ、「市民のためのがん治療の会」を通じて

も積極的に頒布することの許可をいただきました。本 DVD は非売品ですが、本会を通じての場合は本会の他の配布 DVD と同様の扱いで梱包費用や郵送料ならびに若干の事務手数料を加えお送りすることといたします。

●制作

東京慈恵会医科大学

泌尿器科 三木 健太 先生

放射線科 青木 学 先生

●監修

埼玉医科大学国際医療センター

放射線科 土器屋卓志 先生

国立病院機構 東京医療センター

泌尿器科 斉藤 史郎 先生

放射線科 萬 篤憲 先生

東京女子医科大学 放射線科 秋元 哲夫 先生

●仕様 時間：25分 ケース入り

●内容

イントロダクション / 前立腺がんについて
/ 前立腺がん治療法のあれこれ 小線源治療について（密封小線源療法とは 治療の手順入院中のこと） / 退院後の注意点
（生活上の注意点 副作用について 必ず治療後も外来通院しましょう）

●頒価 1,000円（送料とも）

●DVDの購入 市販はしておりません

→「市民のためのがん治療の会」頒布

e-mail、FAX、葉書などで、下記にお申し込みください（郵便振替用紙を同封しますので、代金は現品到着後、お手数ですが郵便局からご送金ください）。

京企画株式会社 「小線源 DVD」係宛

e-mail : com@uniform-k.co.jp

F A X : 0422-44-0750

郵 送 : 180-0003

東京都武蔵野市吉祥寺南2-8-4

●内容等に関する問い合わせ

市民のためのがん治療の会（担当：會田昭一郎）

FAX : 042-572-2564/E-mail:com@luck.ocn.ne.jp

これからどうする、市民の会

市民のためのがん治療の会
代表 會田 昭一郎

「この会はセカンドオピニオンを求めるだけなの」 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

という声を聞いて、会を変革する時が来たと思っただ。もとよりこんなに大きな会になるとは思っていなかったが、数年前から見直しを試行してはいた。去る6月27日、東京で行われた総会で発表した今後の方針についてまとめてみた。

社会的評価と社会的責任 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

筆者が自らの困難を極めた最適治療探しの経験を通じて構築した当会のビジネスモデルは予想以上の社会的評価を得、放射線医療についての認識を広める役割も果たしてきた。この間の事情についてはニュースレターNo.21「市民のためのがん治療の会5周年のあゆみ」に譲る（お手元にない方はホームページでバックナンバーをご覧いただけます）。

順調に軌道に乗った当会の運営は、現時点では筆者と北海道がんセンター西尾院長が中心になって切り盛りしているが、会員がこれ以上増加すれば次第に処理能力をオーバーし、また、生身の人間である限り、いつまでも今のような対応ができるわけでもない。

当会を始める前に、あるメジャーな患者会に少しタッチさせていただいたことがあるが、その時その会の理事長が、資金が枯渇したり自分が倒れたらその会は活動を停止するというようなことを言われた。が、筆者は一定の社会的評価を得た市民運動の活動には、それなりの社会的責任がある、と思う。1,000人もの方々がこうして会を支えてくださっているということは仇や疎かにできない。

それを可能にする理念 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1,000人もの会員がいればこうあってほしい、あああってほしいなどという希望がたくさん出てくるに違いない。希望があるからといって、何でもかんでもその通りにできるわけでもない。そういう多様な要求をまとめ、多くの会員が納得し満足する活動を行うためには、具体的な事業の背骨のようなものがなければならないと思う。ちょうどがん対策基本法と実施計画のようなものだ。理念があってアクションプランがある。

筆者は市民活動だけではないが、市民活動の理念として、「共生」「共感」そして「協働」を掲げたい。

筆者はいつも入会したいと言う問い合わせがあると、「ご一緒に考えましょう、あなたは、もう、孤独ではありません」と返事をする。当会も患者会の一つとして、患者同士、患者と家族、そして近い将来がん患者になるかもしれない、今は元気な方々とも「共生」してゆく道を考えてようではないか。

頭ではわかってもなかなか行動には結び付かないものだ。行動に結び付くには人を動かすエネルギーが必要だ。それが「共感」だと思う。心の琴線に触れるというが、人は何かに共感すると思わぬエネルギーを発揮するものだ。

「共生」の理念に「共感」したら、できる範囲で助け合い「協働」しよう。

そのためには「正しい」「みんなのためになる」「大義名分ある」ことを継続的に言い、多くの人に分かっていただけのような不断の努力をしなければならない。

そして人・カネ・もの ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

このような理念に基づいた活動をしてゆくための組織として、世話人制度を導入したい。現在は、創立委員に役員になっていただき、内規に定める重要事項についてはネット上での役員会で意見を聞き決定し実施しているが、会務運営について、5年間の活動を経て様々なご協力をいただいている方々を中心に、いろいろな活

動部門についてのエキスパートにご相談しながらの運営を試行したい。

同時に東京以外の地域でのカウンタパートを確立し、各地での活動を実のあるものとしてゆきたい。今回の札幌講演会は北海道支部の木村支部長が企画から広報、会場等の折衝など、地元の会員の要求をくみ上げながら練り上げられ、その結果地元のマスコミにも大きく取り上げられた。また、9月の神戸講演会は、かねてからの友好団体である「日本がん楽会」の中原会長のご指導で、日本のがん医療情報で欠落している在宅医療と放射線治療の情報提供という明確なコンセプトのもとに実施される。さらに11月の癌研有明病院での講演会については、世話人を中心にプロジェクトチームを組むなど工夫を試みたい。

理念に基づいた実行計画と車の両輪のようになってこれを実現させるものが、財政基盤だ。

当会の財政基盤は年会費とセカンドオピニオン事務手数料、書籍やDVDなどの頒布手数料、寄付の三本柱だ。誠にありがたいことであるが年会費などはそれなりに確実な実績を上げており、書籍等も同様である。不確定と思われる寄付についても当会の場合特定の事業者や団体に依存していることもなく、多くの場合、個人の少額の寄付から成り立っており、極めて健全な形と言えよう。事業者に対しては昨年辺りから少しずつお願いを始めているが、昨今の厳しい経済状況に鑑み、一件当たりは少額でも多くの事業者等からの幅広い支援を得られるように努力してゆきたい。

筆者は会費、頒布手数料、寄付をほぼ同額にする財源三分法を念頭に置いている。

「～していただきたいと思います」から「みんなで～をしよう」へ ●●●●●●●●

「協働」について考える場合、今回のアンケートが参考になる。何人かの会員と分析してみると、結局、この会の会員の皆さんは筆者と西尾院長にすっかり頼り切っていて、なんでも困ったら相談できて具合がいいという今の状態に満

足しているというような結果であった。だが、これでは発展がない。自分のほしいと思うもの、ほしいと思う状況を作るには、自分もある程度努力する必要があるのではないだろうか。

西尾先生は講演会のときによくPUSとかPUMということを紹介されて、「今はインターネットなどで調べれば色々な情報が得られる。皆さんも病院まかせにしないでぜひ自分でも勉強してほしい」とおっしゃる。これはPublic Understanding of ScienceとかPublic Understanding of Medicineと言われるもので、一般市民の科学や医学に対する理解などといわれ、知識が市民に開かれていて、市民が政策決定に参加できることが市民社会では大切であり、専門知識は専門家にしか分からないから任せておくというのでは、開かれた社会にならない。一般市民が科学や医学の専門的知識を理解し科学技術政策などの意思決定に参画することが市民社会の理想であるというような考え方である（「こころの薬箱」新橋心療内科）。

地域で会員同士が勉強会を行ったり、がんの部位別の患者交流会などを自主的に計画してみたらどうか、本部は最大限のサポートをしたい。

できることから始めよう ●●●●●●●●

時代のトレンドは「参加」である。懸案のホームページのリニューアルに際しては、「今週のセカンドオピニオン」や「がん医療のいま」などのページをメインに搭載し、既に蓄積している1,200件のセカンドオピニオン情報を、個人情報に十分配慮したうえで共有し、60名以上の協力医による、最新のがん医療情報などを共有してゆきたいと思う。

講演会も地域の実情に合わせ、基本的には従来の座学ではなく、来場者も参加できるような方式など、世話人のみなさんと相談しながら検討していきたい。

多くの皆様のご意見をいただきたい。下記あてにご意見をお寄せください。

Email:com@luck.ocn.ne.jp FAX:042-572-2564

◆◆ 北海道支部の活動について ◆◆



「真に喜ばれる
患者会活動を目指して」

市民のためのがん治療の会
北海道支部長 木村 勝夫

他の都府県に比し会員数が多い北海道は、支部を設立し、會田会長をお手伝いしております。4年を経過しました。今、道内会員は140名ほどおられます。

発足当初は、講演会開催時のお手伝いや、年1～2回懇親会等を開催しておりましたが、平成19年9月、当会の協力医 西尾正道先生が院長をされておられる北海道がんセンター内に、がん患者会の活動用として一室が無料で解放されることになりました。

道内の患者会が集まり、この部屋を「がん患者会活動サロン（ひだまり）」と命名し、それぞれの患者会が使用する日時を調整しながら、活用しております。

がんと宣告され不安を持たない人など居りません。一人でおればその不安は止めどなく深まります。がんと闘っている方は沢山おられます。そのような方々にとって、日頃から悶々と持ち続けている不安や悩みを、遠慮なく話せる場、聞いて貰える場が絶対に必要です。それが患者会だと思います。そして同じ部位の方とお会いし話してみたい、そのような願望が強いからでしょうか、部位別に患者会が出来、活動をされているのが実態です。現在、「ひだまり」の使用を申請している道内の患者会は14団体です。

北海道支部は、「ひだまり」発足以来、毎月第3水曜日（午後1時～3時）を例会日と定め欠かすことなく月例会

を開催しております。

患者会は、患者さん同士が、治療の経過等自分の体験や、食事等日常生活において着意していることなどを話し合い、友を得、不安の解消に努めておられるのが一般的と思います。しかし、私どもの会は違います。そこのがん治療専門医がおられるのです。西尾先生は、特別な行事が入らないかぎり顔を出してくれます。

主治医からの説明不足を補っていただいたり、セカンドオピニオンを受けられたり、月例会は、即「がん何でも相談室」に変わります。先生からアドバイスを受け、積もり積もった不安や悩みが一機に解消し、笑顔で帰宅される参加者を見る度に、月例会の継続開催の必要性を痛感します。

がん治療専門医にご参加いただけるという夢のような患者会、西尾先生に感謝しつつ、毎月開催に拘り、一人でも多くの方々に喜んでいただける患者会にしていきたいと考えています。

会員に限定しておりません、ご家族やお友達も遠慮なく参加していただきたいのです。稀少ながん治療専門医の知識を無駄にしたくない、最大限活用したい、そんな思いで、毎月第3水曜日（午後1時～3時）北海道がんセンター管理棟4階「がん患者会活動サロン（ひだまり）」において、来月も再来月も、西尾先生のご協力をいただきながら、継続開催に拘っています。



函館がん患者家族会「元気会」活動報告

代表 齊藤さちこ

早いもので、昨年7月に「元気会」を発足してもうすぐ1年が来ようとしています。そこで会の活動報告をさせて頂きたいと思います。発足当初は7名ほどの参加で淋しく、この先どうなるのか不安に感じましたが、会を開催する毎に会員が増加し、現在は39名となりました。20年度は2ヶ月に1回程度の会を開催しました。

共同代表の3人は皆仕事の合間をぬいながら、会合を重ね、開催内容を検討し、場所・講師の手配、案内など行いました。会の目的が会員同士の交流を中心にしてはいますが、会員のQOLを高めることにしているので、内容は様々です。

【20年度】

1. 「健康によい食事」をテーマに薬膳の先生に美味しい玄米のおにぎりとお茶を頂きながら、お話を伺いました。
2. 温泉食事付き茶話会を開催。会員の経営する温泉ホテルを利用し、とっても楽しい一時を過ごしました。
3. 医師による「患者に寄り添う緩和ケアについて」と題して講演会を開催し、会員以外にも門戸を広げて開催し30名の参加がありました。

だいぶ顔見知りも増えたようで、会終了後有志でご飯を食べに言ったり、お茶を飲んだりしています。会員は30代から70代まで、がんの部位も様々で、現在治療が終了した方、再発して治療が開始となった方、現在も治療中の方などいろいろです。

21年度は、又楽しく多岐にわたる内容を考えています。

市民菜園を借りて「元気の種まき」をしました。秋には「元気の収穫祭」を予定しており、

おいしいジャガイモなどでいも煮会を計画しています。毎月1回は開催することに決定し、隔月でイベントを盛り込みました。6月はチェロとピアノの音楽鑑賞会、8月は道南で1人しかいない化学療法認定薬剤師講演会、他にも落語を聞いて笑い免疫細胞増やす会など計画しています。茶話会では、医療の話から、健康食品、経済的な問題など様々出ます。そこには今度アロマやマッサージも取り入れたいと考えています。会に参加して、自分の元気を分け与えたいと思う人、元気を少しでももらいたいと思う人、参加の意図は色々です。事務局の私達も元気を与えるようで、参加者から元気をもらっていることに気がつきました。

これからもあせることなく、継続は力なりで、「元気会」続けていきます。22年度は、がん診療拠点病院が市内に2カ所出来たこともあり、医療機関・企業や多くの市民とつながり、大きなイベントを計画したいと考えています。その時にはまた御協力よろしくお願ひします。そんな少し先に目標を持って、みんなで楽しく頑張りたいと思っています。



会員と共に雨の中、「元気の種まき」をしました。



左より齊藤代表、講演を頂いた福徳医師、米田副代表

「市民のためのがん治療の会」の活動

●放射線治療医によるセカンドオピニオンの斡旋

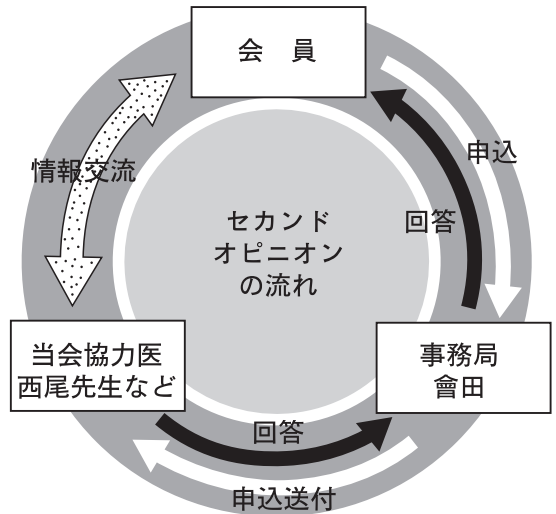
臓器別・器官別の専門医とは異なり、全身のがんを横断的に診ている放射線治療医によるセカンドオピニオンは、患者にとって有益な情報です。放射線治療に関する情報がきわめて不足しているため、患者にとっては急速に進歩している放射線治療に関する最新の情報を得られる意味でもメリットがあります。セカンドオピニオンをご希望の方には、がんの状態やお住まいの地域などを考えて全国の放射線治療の有志の先生方が、適切なアドバイスをいたします。これらの先生方は日本医学放射線学会専門医及び日本放射線腫瘍学会認定医の両方の資格を有するがんの専門医です。

●放射線治療についての正しい理解の推進

当面は放射線治療を中心とした講演会や治療施設への見学等を行う予定です。

●制度の改善などの政策提言

医療事故等による被害者はいつも医療サービスを受けざるを得ない消費者である患者です。こうした問題や医療保険など、医療の現場や会員の実態などを踏まえ、がん治療を取り巻く制度的な問題などに対する具体的な政策提言などを行い、具体的に改善策の実施をアピールしてゆきたいと考えております。



平成20年7月から21年6月までの間に次の方々などからご寄付をいただきました。ありがとうございます。(敬称略)

個人

青木由紀子	阿部 光幸	有元真理子
生田いさ子	伊藤 憲治	岩崎 亨
内田圭衣子	内田 伸恵	大竹吉久_太郎
大森 久紀	小賀野美譽子	荻野 和義
柿崎美智子	葛西 道生	叶 昭人
北川 佳恵	國生 淑子	小林 美穂
小松 基悦	齊藤のり子	佐々木映子
佐野 昭夫	諏訪 洋子	高野 栄子
高橋香代子	田湖 正夫	田中 文子
田中 良明	谷川 文吉	都留 義人
富永裕美子	中田 直介	中村一典_桃子
南雲 幸江	西村 勇	橋本 克彦
早瀬 尚文	平林 晟	廣田佐栄子
福光 啓	藤井 正光	松田美代子
水野 幸子	茂木 昌孝	山下 敦子
横山 哲		

法人等

エーイーティー	大塚製薬	京企画
札幌医科大学	シー・エム・エス・ジャパン	
中外製薬	千代田テクノ	
テルモ	日本メジフィジクス	
バリアン	ブレインラボ	

ご寄付のお願い

全国各地での講演会の開催、書籍の出版など「市民のためのがん治療の会」のさらに幅広い活動のためにご寄付をお願いいたしております。

ご送金先は、ゆうちょ銀行 ○一八（ゼロイチハチ）

普通口座 市民のためのがん治療の会

口座番号 018 6552892です。

よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

***** 編集後記 *****

○6月の東京講演会では総会も行い、今後の会の運営について私なりの考えをお話しました。これに先立ち会員の皆様のご意見も伺いたいと思い、前回のニュースレター送付時にアンケート用紙を同封させていただきました。貴重なご意見を頂戴いたしました。ご協力に感謝いたします。が、回答をお寄せいただいたのは、1,000人の会員中50名ぐらいの方々でした。

○講演会についても、5年間継続してきたやり方なども見直さなければならぬと思います。札幌講演会は、木村支部長が中心になって企画されたものです。地元が求める、地元のための、地元による講演会です。今後の神戸、癌研有明病院での講演会のモデルケースとして注目しております。(A)

創立委員

會田昭一郎	市民のためのがん治療の会代表
上總 中童	株式会社 Accuthera 取締役副社長
菊岡 哲雄	凸版印刷株式会社
田辺 英二	株式会社エーイーティー 代表取締役社長
西尾 正道	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター院長
山下 孝	癌研究会附属病院副院長

(五十音順)

TECHNOL

放射線の安全利用技術を基礎に 人と地球の安心を創造する



すばらしい可能性を持つ放射線を
皆様に安心してご利用いただくことが私たちの願いです



定位放射線治療システム
サイバーナイフⅡ

**体幹部治療
薬事承認取得!!**

サイバーナイフ事業部
TEL 03-3816-2129

営業推進本部
TEL 03-3816-1163



◆お問い合わせ

TEL 03-3816-5241 FAX 03-5803-4870
ホームページURL <http://www.c-technol.co.jp>

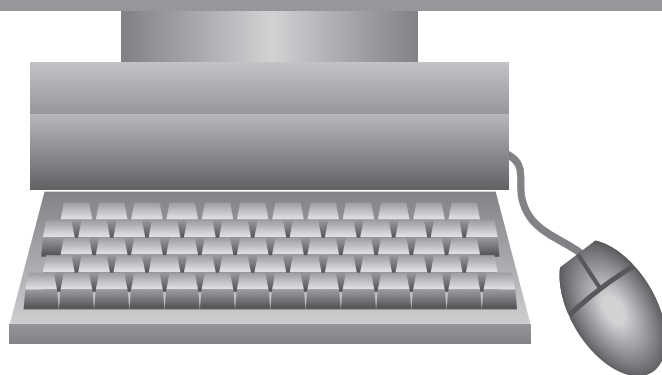
株式会社 **千代田テクノル**

〒113-8681 東京都文京区湯島1-7-12
千代田お茶の水ビル

参考書籍のご案内

注文	書籍名 / 著者 / 出版社名	当会 頒価	注文	書籍名 / 著者 / 出版社名	当会 頒価																					
	がんは放射線でここまで治る－第1集 ／市民のためのがん治療の会	1,000		ドクター中川の“がんを知る”／中川恵一著／毎日新聞社	1,000																					
	安心して受ける放射線治療 ／伏木由見子 訳／市民のためのがん治療の会	300		続・ドクター中川の“がんを知る” ／中川恵一著／毎日新聞社	1,000																					
	今、本当に受けたいがん治療 ／西尾 正道 著／エム・イー振興協会	1,500		入会案内	無料																					
	がんの放射線治療／西尾 正道 著／日本評論社	2,000		講演会などのDVDのご案内	無料																					
	放射線治療医の本音／西尾 正道 著／NHK 出版	1,400	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">フリガナ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>お名前</td> <td>(姓)</td> <td>(名)</td> </tr> <tr> <td>ご住所</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">〒</td> </tr> <tr> <td>ご自宅TEL</td> <td>()</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>ご自宅FAX</td> <td>()</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td colspan="3">電話とFAXの番号が同じ場合は「同じ」、FAXを使っておられない場合は「なし」とご記入下さい。</td> </tr> <tr> <td>e-mail</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>「市民のためのがん治療の会」では、みなさまのご参考となる書籍の斡旋をしております。注文欄にチェックをして当会宛にeメール、FAX、郵便でご注文頂ければ、送料当会負担でお送りします。料金は同封の郵便振替用紙でご送金下さい。FAX、郵便の場合はこのページをコピーされますと便利です。(FAX 042-572-2564 住所 〒186-0003 国立市富士見台1-28-1-33-303 會田方)</p> <p>また、ご入会ご希望の方や当会について詳しくお知りになりたい方もこの用紙で「入会案内希望」の注文欄にチェックをして、同様にお送り下さい。説明書をお送りします。</p>			フリガナ			お名前	(姓)	(名)	ご住所	〒		ご自宅TEL	()	－	ご自宅FAX	()	－	電話とFAXの番号が同じ場合は「同じ」、FAXを使っておられない場合は「なし」とご記入下さい。			e-mail		
フリガナ																										
お名前	(姓)	(名)																								
ご住所	〒																									
ご自宅TEL	()	－																								
ご自宅FAX	()	－																								
電話とFAXの番号が同じ場合は「同じ」、FAXを使っておられない場合は「なし」とご記入下さい。																										
e-mail																										
	眠れ！兄弟がん／篠田 徳三 著／文芸社	1,300																								
	前立腺ガンーこれだけ知れば怖くないー ／青木 学 訳／実業之日本社	1,500																								
	がんのみみつ／中川 恵一 著／朝日出版社	700																								
	ガンに打ち勝つ患者学／藤野 邦夫 訳／実業之日本社	1,500																								
	私のがんなら、この医者に行く (名医143人紹介) ／海老原 敏 著／小学館	1,700																								
	だいじょうぶ ／鎌田貴 × 水谷修 往復書簡／日本評論社	1,200																								
	がん治療の常識・非常識 ／田中 秀一／講談社ブルーバックス	860																								
	多重がんを克服して／黒川 宣之 著／金曜日	1,300																								
	がんを生きるガイド「がん難民」にならないために」 ／日経メディカル 編／日経 BP 社	2,400																								
	ビジュアル版 がんの教科書／中川 恵一 著／三省堂	1,700																								
	心配しないでいいですよ 放射線治療 ／山下 孝、隅田 伊織 著／真興交易株式会社出版部	1,800																								
	がん！放射線治療のススメ／中川 恵一 著／三省堂	1,600																								
	切らずに治すがん治療／中川 恵一 著／法研	1,600																								
	がんは放射線治療で治すー切らずに、無理せずに、がん克服 ／中川恵一 著／エム・イー振興協会	2,100																								

2009.07



発行人 會田昭一郎
 編集人 菊岡 哲雄
 発行所 市民のためのがん治療の会
 制作協力 株式会社千代田テクノ
 印刷・製本 株式会社テクノサポートシステム

会の連絡先 〒186-0003
 国立市富士見台1-28-1-33-303 會田方
 FAX 042-572-2564
 e-mail com@luck.ocn.ne.jp
 URL: <http://www.com-info.org/>
 郵便振替口座 「市民のためのがん治療の会」
 00150-8-703553